



巻頭言 子どもの権利に関する条例を制定へ

【条例づくりの経緯】

私も所属する福祉教育委員会では、2023年12月より約1年半かけて、議員発議での子どもの権利条例の制定を目指して調査研究してきました。1989年に国連で採択された子どもの権利条約（日本は1994年に批准）では、①生命・生存・発達に対する権利②子どもの最善の利益③子どもの意見の尊重④差別の禁止を4原則を定めています。2023年には、条約と憲法に則り、子どもの権利の擁護を明記し、子ども施策の基本理念を定めたこども基本法が施行されました。私たちがつくる条例は、条約や法律の趣旨に基づき、こども施策を担う基礎自治体である安曇野市の理念的な根拠となるものです。

【制定に向けての取組】

この間の取組として、日本で初めて条例制定した川崎市、議員発議で条例制定した佐久市等の先進地視察、有識者や弁護士を招いての研修会、また松本児童相談所、市内小中学校校長会、市PTA 連合会幹事会、市内児童館、豊科高校生、穂高商業高校生との意見交換会を行いました。また令和6年7月には、市内小中学校児童生徒に向けて子どもの権利に関するアンケートを実施しました。「子どもの権利を知っていますか？」という設問に対し、「内容を知っている」は22%に過ぎず、残りの約8割が子どもの権利の内容を知らないということが分かりました。では、私たち大人（親、学校の先生、地域住民など）も、どれだけ知っているのでしょうか。私たちは子どもの権利について、自治体レベルでの啓発が必要だと課題認識しました。

【条文づくり】
令和7年1月からは条例案を作り始めました。素案を元に議会での政策討論会、市行政と意見交換を行い、5月には市民説明会、市教育委員会委員との意見交換会を行いました。これら過程を経て、6月12日より30日間、市民へのパブリックコメントを実施しました。本条例は、前文と目的、定義、基本理念、子どもの権利の日、子ども、市、市民、議会それぞれの役割を定めた全9条で構成された「理念条例」となっています。その中で、「子どもの権利の日」を具体的に日付設定した条文にしており、この条文を根拠・契機に、市行政には子どもの権利に関する政策・施策づくりを促します。また条例制定に加えて、「政策提言」という形でより具体的な政策を行政に提言します。

【最後に】

このように、これまでの議会では見られなかった幾多の取組と調査研究を今回の福祉教育委員会ではしてきました。何度も話し合いを重ね、その道のりは本当に大変でしたが、「子どもの権利」の理念を安曇野市に根付かせ、子どもがより幸せに生きていける安曇野市にしていこうという福祉教育委員たちの強い願いをもって進めてきました。次回9月定例会（8/26開会）に条例案が上程され、賛成多数ならば条例となります。任期最後の議会で我々議員がどのような議論をするのか、ぜひご注目ください。

【最後に】

このように、これまでの議会では見られなかった幾多の取組と調査研究を今回の福祉教

みなさん、こんにちは。安曇野市議会議員の増田望三郎です。安曇野市政や議会が市民にとって身近になるために、虹（＝Rainbow レインボウ）の架け橋となるような議員活動をしていきます。望三郎の活動はブログやフェイスブック、インスタでもどうぞ。



育委員会ではしてきました。何度も話し合いを重ね、その道のりは本当に大変でしたが、「子どもの権利」の理念を安曇野市に根付かせ、子どもがより幸せに生きていける安曇野市にしていこうという福祉教育委員たちの強い願いをもって進めてきました。次回9月定例会（8/26開会）に条例案が上程され、賛成多数ならば条例となります。任期最後の議会で我々議員がどのような議論をするのか、ぜひご注目ください。

福祉教育委員会メンバー
岡村典明議員、平林明議員、白井泰彦議員、中村今朝子議員、矢澤毅彦議員、増田望三郎

福祉教育委員会の取組



望三郎議員とのおしゃべり会

日時：8月3日（日）午後2時～4時
場所：蔵のカフェレストラン清雅（豊科3550-1）
※参加者は飲み物をご注文ください。参加議員は望三郎だけです。
市政の様々な課題や市民のみなさんが関心あるテーマについて、望三郎議員の考えを聴いてみたい、自分の考えも聞いてもらいたいという方、どうぞご参加ください。

●プロフィール

大分県出身 56歳。東京経由で安曇野に移住し22年目に。三郷小倉に妻、妻の両親と暮らす。自給の農業をしながら、出会いと体験の宿『安曇野地球宿（ちきゅうやど）』を経営。安曇野市議3期目。好きな言葉は『出会い、共感、展開』



サポーターからの応援メッセージ 44



平田明子さん

（三郷／あそびうた作家）

望さんをご存知の通り、これ！と思ったことにまっすぐ進んでいく人だ。みんなの意見を聞きながら、周りの

のみんなを巻き込んで実現していく。そんなまっすぐな望三郎にはつつい笑っちゃうお茶目なところがある。田植えに行くと、みんなせつせと田んぼに入り作業をする。ふと見ると望さんがいない。（あれ？さっきまでいたのに？）目を逸らすとブランコに乗って揺れている。ある日は、お昼に地球宿に行ったら、玄関に足が出ていた。見ると望さん。ちゃんと布団で寝ると起きられないから、誰かが来る玄関で寝ていたそう。マジか。（笑）仮眠も忙しい望さんならではのアイデア！望さんに会う前、議員のイメージは真面目でまっすぐ。己の信じる道を進むのみ！といった感じ。もちろん望さんはまさにそういう人！！その想いでたくさんの方を今までも進めてきた。でも彼はフワッと雲のようなクラゲのような軽やかさと柔軟さ、お茶目さも持ち合わせている。己の道を行くその中に存在するフワッとした余白。俯瞰的な佇まい。彼のように強く、柔らかく、遠くから、近くから、そんなふうに見れる人はなかなかいないのでは？増田ぼうざぶろう。名前もいいよね。次期の市議選も応援するよー！望さん、がんばれー！！

6月定例会の一般質問

【質問】 選択と集中が問われる安曇野市政
～公共施設再配置と財政の展望～
望三郎の問題認識

市は有利な合併特例債を活用して多くの公共施設を整備してきました。短期的には得をしたとも言えますが、中長期的には今後の市政運営にどんな影響を及ぼすのでしょうか。今回の質問では、市の将来にわたる財政運営と公共施設再配置（整備、統合）に焦点をあてました。これからの安曇野市は、「何でもかんでもやる」あるいは「やってください。」ではなく、限られた行政資源（人、モノ、金）をより効果的に活用するため、必要性の高い事業や施策に重点を置き、非効率的な事業や施策を縮小または廃止しなければならないのではないのでしょうか。市民の皆さんにも知って頂きたい安曇野市の「家計」です。

望市議 市の公共施設の延床面積を減らす公共施設再配置計画は予定通りの進捗か。

部長 策定から10年弱が経過し、現在は床面積が約9.4%減少し順調と言えるが、個別には想定どおり進んでない施設もある。

望市議 こども園や小規模校など教育施設建設費用や維持管理費用など財政的な見地から見れば、統廃合もやむなしという選択肢もあったのではないか。施設整備や存続にはどのような考え方があったのか。

部長 市教育施設の統廃合の予定は現在はない。小中学校での特別支援学級の増加、放課後児童クラブ室の教室整備に伴い、学校施設の活用状況は高まっている。

教育長 小規模校の利点として、一人一人へのきめ細やかな指導が可能であり、自然豊かな環境で学ぶことや、地域社会との交流を通じて子供たちの成長を促す効果も期待でき

る。児童生徒一人一人の特性に応じた教育を実現する上で、小規模校的な学校環境は非常に重要である。

望市議 合併特例債を限度額まで発行したことで、今後の財政にどんな影響があるか。

部長 実質公債費比率の大幅な変動はない。今後も長期的な視点に立ち、起債は実施事業の選択や事業費の検討、有利な起債を選択して公債費負担縮減と年度間の均衡に取り組む。

望市議 今後財政的な制約が予見される中で、福祉や子育て、文化などのソフト事業にも大きく影響していくのではないか。

部長 ソフト事業も現行水準を落とさず、福祉や子育てなど各施策を実施できる金額を計上している。子育てに係る経済支援は人口増にもつながる。今後も子育て施策を中心にソフト事業にも力を入れる。

望市議 財政的観点からの今後の市政運営について市民へメッセージを。

市長 指数をみると安曇野市の財政状況は極めて健全。税収などの自主財源の伸びが期待しづらいこと、社会保障費や公共施設維持更新費用など歳出は今後着実に増加していく。新たな産業団地、松本糸魚川連絡道路の開通により、定住者の増加、市内経済の好循環につながられるように全体の事業バランス、財政バランスを鑑みながら投資すべきと判断したところには、積極的な投資をしていく。

先例の見直しにより、無所属議員も同等の扱いに！

令和5年9月定例会に市民グループから提出された陳情「議員平等の原則に基づく安曇野市議会の運営と議会内人事の平等を求める陳情書」を、市議会では同年12月定例会において全員賛成で採択しました。これを機に議会改革推進委員会（望三郎が委員長）は1年余をかけて議論を重ね、このたび議会内人事の見直し案がまとまりました。大きな変更点

は、会派に属さない無所属議員は、議会広報特別委員会、議会改革推進委員会、一部事務組合議会に参加できなかったのが、参加できるようになったことです。これは議会を構成する議員は、性別、年齢、社会的地位、議員の経験年数などに関係なく対等であるとする議員平等の原則に合致するものです。

今回の見直しにより、無所属議員の各委員会参加への道が開かれ、今まで以上に多様な意見が出され、議会活性化につながっていきます。また委員会参加のためだけに望まない会派を便宜的に組む必要も無くなります。今回の見直しは10月の市議選後からとなり、安曇野市議会20年目にして無所属議員不遇の議会内人事は終わることになります。

6月定例会トピック

▼穂高駅前のホテル開発の陳情審査は3月定例会に続き継続審査に。またこのホテル開発を契機に出された高さ制限の見直し等に関する陳情は不採択になりました。（※望三郎は後者陳情は賛成）今回のホテル開発は現法令上は問題ないですが、地下水への影響を考えると業者にはより詳細な説明を求め、また行政にはその対応を望みます。また高さ制限についての検討も、今後の安曇野市のまちづくりにおいて必要な議論だと考えます。

▼フリースクール支援の陳情は、フリースクールを利用する家庭に対して、公的援助と市内児童生徒の全家庭に民間教育施設の情報を広報することを求めるものでした。市でも不登校児童生徒数が増える中、これら支援は必要だと考えます。合わせて県教職員組合から出された学習指導要領を精選し、カリキュラムの負担を軽くすることを求めた請願は、児童生徒及び先生たち双方にとって必要であり、これらは採択されました。（※望三郎も賛成）

